

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第4回）盛岡ブロック① 会議録

【盛岡ブロック：八幡平市、雫石町、岩手町、葛巻町】

○ 日 時：令和2年8月17日（月）13時30分～15時30分

○ 場 所：サンセール盛岡 1階 大ホール

○ 出席者

① 会議構成員

八幡平市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

雫石町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

岩手町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

葛巻町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

盛岡教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般6人、報道2人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 後期計画策定に向けた意見交換

＜意見交換テーマ＞

（1）後期計画の基本的な考え方等について

（2）後期計画の具体的な取組について

【県教委】

- ・ まず、「後期計画の基本的な考え方等」と「後期計画の具体的な取組」について、事務局から説明させていただき、その後、御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料No. 1「新たな県立高等学校再編計画後期計画（案）の概要」、資料No. 3「地域検討会議等で寄せられた意見の反映状況等」、資料No. 4「盛岡ブロックにおける大規模校の統合について」に基づき説明。

【田村 八幡平市長】

- ・ 後期計画案における小規模校の取扱いについては、学校の魅力化に向けて支援しながら一定の入学者があれば存続させることとしており、このような県教育委員会の考え方を評価している。
- ・ また、盛岡南高校と不来方高校を統合する計画としており、盛岡市内の大規模校の統合は画期的な取組であると評価している。
- ・ AIやIoTを活用した教育を実践していくことが、小規模校の学力向上に資するものと捉えている。今般の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からも、このことを視野に入れて高校教育の在り方について考えてほしい。
- ・ 平舘高校に県外生徒の受入れを導入していただいたことは、地方創生のさらなる推進となることから感謝しているところである。県外生徒が平舘高校への入学を希望しやすくなるよう、制度の柔軟な運用をお願いしたい。
- ・ ほとんどの中学生が高校へ進学する高校全入時代であり、義務教育と同様に取り扱うことはできないものか。例えば、各市町村において普通科への入学を希望する生徒は、地元を設置さ

れた高校に入学するような制度があってもよいのではないか。

【遠藤 八幡平市商工会事務局長】

- ・ 平舘高校のインターンシップ等については、商工会として協力してきた経緯がある。今年度
に実施を予定していたインターンシップは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期し
ているところであるが、青年部員によるパネルディスカッション等を開催することで、高校生
に地域のことを知ってもらう活動を行っている。
- ・ 後期計画案は、これまで開催された会議での意見を踏まえて作成されており、生徒の希望す
る進路の実現と、地域や地域産業を担う人づくりを基本とする考え方に賛同できる。
- ・ 新型コロナにより新たな生活様式が推奨されるなど、社会は大きく変化している。国の動向
としては普通科再編が検討されており、学際融合や地域探究について学ぶ学科の設置等、普通
科に特色ある学科の設置を認める方向性を示している。地域の意見を踏まえて作成された後期
計画案には賛成しているところであるが、今後の社会の変化を見据え、柔軟な計画となること
に期待している。
- ・ 2年後にハロウインターナショナルジャパンが当市の安比高原に開校する予定であり、この
ことは本県に貢献するものと考えている。

【鈴木 葛巻町長】

- ・ 後期計画案においては、地域における高校の役割を理解した上で、1学級校でも存続させる
こととしており、このような考え方を評価している。
- ・ 具体的な取組として盛岡市内の大規模校を統合する計画が示されており、盛岡市周辺部の小
規模校の入学者の確保に繋がることが期待できることから賛同するものである。盛岡市周辺部
の1学級校の入学者が20人以下とならないような高校再編を考えてほしい。
- ・ 入学者の欠員状況により統合や学級減を行うとする基準がある限り、中学生は安心して小規
模校への入学を希望することができない。市町村が希望するのであれば、小規模校であっても
長期的に存続させる考え方を示し、生徒及び自治体ともに安心感を持って生活することができ
る制度とするべきである。
- ・ 今後の高校教育については、各市町村の特色ある産業と深く連携した学びの在り方について
考えていくべきである。

【県教委】

- ・ 本県では、学びの改革プロジェクトにより、AIやICT等の新たな技術を活用した学びの
充実を進めていくこととしている。小規模校においては、遠隔授業の実証研究を行いながらそ
の在り方について検討しており、どの地域であっても、自分の進路を実現できる教育環境の構
築を目指している。人口減少に対応した県の政策と整合させた高校再編としていきたい。
- ・ 今後、後期計画後10年間の高校再編についても策定準備を進めることとしており、その際
は、新型コロナウイルス感染症への対応や、国による高校普通科改革の方向性等の社会の変化
も十分に踏まえながら検討していく必要があるものと考えている。
- ・ 1学級校をはじめとした小規模校は、地域から非常に大切にされており、地域振興に果たす
役割も大きいものと認識しているところであるが、入学者が極端に少ない状況になると、教育
の質を維持することが難しくなることを懸念している。
- ・ 1学級校については、学級を進学コースと就職コースに分けることで実質2学級として運営
している学校が多く、そのような中、入学者が20人以下の状況であると、各コースの生徒が
少数となってしまう、ディスカッションやペアワーク等を取り入れた主体的・対話的で深い学
びに向けた授業の展開が難しくなる場合もある。

- ・ 後期計画案の作成に当たり、学区の在り方については、有識者による「県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方検討会議」により検討を重ね、当面は、現状の学区制を維持することとしている。
- ・ 小規模校においても一定の入学者が確保できるよう、県教育委員会としても小規模校の魅力向上に向けて支援していく方向性を示したところである。中学生が地元の高校を理解することにより、入学希望者の確保に繋がることを期待し、知事部局との連携等も図りながら取り組むこととしている。

【星 八幡平市教育委員会教育長】

- ・ 盛岡市内の高校に志願者が集中している状況を改善しなければならないことから、盛岡ブロックの大規模校の統合は画期的な計画であると評価している。
- ・ 小規模校の維持について、A I や I C T の活用による遠隔授業等の可能性を探るということであるが、遠隔授業であれば、少人数であってもグループでの学習と同等の効果を得ることが期待できる。小規模校においても質の高い授業を実現できるよう、学校間の交流等を図りながら様々な可能性を探っていただきたい。

【高畑 葛巻町教育委員会教育長】

- ・ 小規模校であっても、I C T 環境の整備と連動させることで探究的な学びを実現できるよう、教育活動の充実に力を入れていただきたい。
- ・ 各学校が地域と協働しながら総合的な探究の時間等のカリキュラム編成を進めていくに当たり、教員は外部団体との連携等が必要となる。今後、さらに充実したカリキュラムとするためには業務量の増加が予想され、現状で配置されている教員数での実現が難しくなることから、教員加配や支援員の弾力的な配置をお願いしたい。

【作山 雫石町教育委員会教育長】

- ・ 各市町村には学校が必要であり、地元の学校への入学者を確保することは大切である。一方で、地元以外の学校に進学を考える生徒の希望を叶えることも大切であり、両立させなければならないものと考えている。
- ・ 小規模校では、理科や社会等における教科の専門性を深める教育課程の編成が難しい。盛岡ブロックにおける大規模校の統合については画期的な計画であると評価するものの、盛岡市周辺部の県立高校への入学者確保に向けた対策を講じなければ、私立高校への入学者の増加を加速させるだけではないか。
- ・ 高校の魅力化促進事業についても素晴らしい取組であると評価している。このことについては、各市町村の教育委員会と連携を図りながら、高校が主体的に実践していくことで効果が期待できるものと考えている。

【県教委】

- ・ 各県立高校の学校長は、どの地域においても存続に対する危機感を抱いている。多くの学校において地元の自治体から支援をいただきながら地域とのかかわりを大切にしており、地元の生徒が入学したいと思うような学校づくりに向けて、教育活動の充実に努めているところである。
- ・ 高校の魅力化促進事業は、各自治体の協力をいただきながら良好な運用が始まっていると認識しており、単年度の事業ではなく、今後も継続していきたいと考えている。小規模校の魅力化により地元自治体の魅力も高まるものと考えており、今後についても、地元の協力をいただきながら進めて参りたい。

【佐藤 岩手町教育委員会教育長】

- ・ 地域創生の推進には、子どもたちが自分の地域に誇りを持ち、その地域で産業を興して生活していくことが大切である。高校の魅力化促進事業を進めるに当たっては、地域産業と連携を図り、地域の良さを生かした能動的な取組となるようお願いしたい。
- ・ さらに、各地域の特色を生かした教育活動の実践については、全国に向けてICT等を活用しながら地域と学校の魅力ある情報を発信するとともに、学校案内パンフレット等も作成し、入学を希望する生徒が増えるような取組を進めることが必要と考える。

【福士 岩手町農業委員会】

- ・ 後期計画案では基本的な考え方と具体的な取組について詳細な内容が示されており、県教育委員会の考え方を評価することができる。
- ・ 後期計画の策定に当たっては、県教育委員会の考え方を地域の保護者にも十分に説明し、理解を得ながら進めていくことが大切である。

【猿子 雫石町長】

- ・ 少子化の時代を迎えて以来、地方の学校から規模を縮小してきたことから、志願者が盛岡一極集中の状況となっている。このことを是正するために、盛岡ブロックの大規模校を統合する計画とした後期計画案には賛同するものである。
- ・ 雫石町の人口減少は顕著であり、行政として対策を講じてはいるものの、盛岡市内への交通の利便性が高い状況や、盛岡市内の高校への入学を望む保護者が多い状況にあることから、地元の高校への入学者を確保することが難しい。県教育委員会と雫石高校には、雫石中学校からの入学者の確保に向けた取組を強化していただきたい。
- ・ 高校再編に当たっては、伝統芸能やスポーツに特化した学科を新設することも必要と考えており、各地域の特色を踏まえた高校再編となることを望む。

【志田 葛巻町立葛巻中学校PTA代表】

- ・ 葛巻町では、地元出身の生徒と山村留學生が分け隔てなく生活しており、地域の大人が温かく見守っている。子どもたちが安全に生活できることが町の魅力であり、このような地域の魅力を県内外に発信してことが大切であると考えている。
- ・ 町の支援を受けて公営塾を開設するなど学習環境が整備されていることもあり、子どもたちの学力が向上していることを実感している。このような取組については、葛巻高校の先生方にも全面的な協力をいただいていることから、今後においても、学習指導等に熱心な教員の配置を継続してほしい。

【岩崎 岩手町PTA連合会副会長】

- ・ 子どもが地元の学校に通学すれば親としては安心ではあるが、盛岡市内の学校に入学して頑張りたいという希望が強いのであれば、その意思を尊重することも必要と考えている。
- ・ ハイスクールガイドには各高校の詳細な情報が掲載されており、中学生とその保護者にとって参考となる内容に編集されていると思う。さらに親子で高校入学後の進路目標等について考えることができるよう、入学した高校で実現できることについての情報が充実すれば、なお良いのではないかと。

【畠山 八幡平市立西根第一中学校PTA会長】

- ・ 後期計画案については、基本的な考え方や具体的な取組について詳細に記載されており、素

晴らしい内容であると感じている。

- ・ 高校入試を控える子を持つ親として、自分が高校を選択した頃のことを考えみると、地元には平舘高校があるものの、盛岡市内の普通科に進学してもよいという雰囲気はあったように思う。昔から、職業に関する専門分野を学びたい生徒であれば農業高校や工業高校を選択するが、普通科への入学を希望する生徒は盛岡志向にあるように思う。
- ・ 県として、小規模校を対象とした高校の魅力化促進事業に取り組むことは素晴らしいことである。平舘高校でも地元の商工会と連携したインターンシップや、進学クラスの開設等の取組をしており、そのような取組を推進していることを中学生と保護者に情報提供していくことで、地元の高校への入学者を増やすことができるのではないかと。

【小澤 新岩手農業協同組合常務理事】

- ・ 後期計画案の基本的な考え方や具体的な取組の内容については評価している。
- ・ 1学級校の入学者が20人以下になれば統合の危機となることから、高校の魅力化促進事業を推進することで学校の魅力化を図り、入学者の維持に努める必要がある。
- ・ 今後においても、盛岡市内の高校への志願者集中が続くものと想定しているが、その対策として、平舘高校、沼宮内高校、葛巻高校の魅力を高め、盛岡市内の中学校からも入学者を集める取組を進めてほしい。そのような取組を進める際には、県や市町村において寄宿舎を整備し、食事費用等を助成することで、保護者の負担を軽減させる制度が必要となる。

【岩崎 雫石商工会事務局長】

- ・ 盛岡市内の学校については、公立高校、私立高校ともに校名がブランド化しているように感じている。特に私立高校については学校の特色化に努めており、スポーツ等においても実績をあげている。このことから、地元の雫石高校よりも、盛岡市内の高校に進学したいと考える生徒が多い傾向にあると思う。
- ・ 盛岡南高校と不来方高校の統合案は評価するものであるが、盛岡南高校と紫波総合高校を統合するなどの考え方もあるのではないかと。
- ・ 県立高校は私立高校の経営に学び、学校の魅力とは何かについて、根本から考えていくべきである。

【角掛 岩手地区校長会副会長】

- ・ 私立高校は、学校の特色とともに、入学することで何を学ぶことができるのかを明確化している。このことが、私立高校の入学者が増加している要因となっているのではないかと。
- ・ 県立高校においては、例えば工業高校の学科名から学科の特色や学びの内容を理解することが難しい。専門的な学びの内容については、中学生にわかりやすく説明することで、選択肢として考えてくれる生徒が増加するのではないかと。
- ・ サテライト方式による講義を行う大学等が増加していることから、今後、広大な県土を有する岩手においても遠隔授業を導入して多様な学びを実現することが、地元の高校を志望する中学生の増加に繋がるのではないかと。

【佐々木 岩手町長】

- ・ 4回目の開催となる本会議においては、後期計画案の具体について示されており、よくまとめられていると評価している。
- ・ 町としては、人口増に向けた移住者及び定住者の拡大をどのように促進していくか思慮しているところである。後期計画案は生徒の将来を第一に考え、地域のまちづくりを大切にしていることから、岩手町の政策との関連性が高いものと認識している。

- ・ 小規模校におけるICT等を活用した教育の在り方が注目されており、本県の教育においては、小規模校だからこそできる質の高い教育の実現に向けて、時代を先取りした取組を推進してほしい。
- ・ 全国的に地域の学校の魅力化に向けた先進的な取組はあるが、本県としても先進的なプロジェクトとなるよう努めてほしい。質の高い教育となるよう理念を持ちながら、まちづくりの一環として地元の高校との繋がりを深め、政策と高校の事業をタイアップさせながら地域社会に貢献する人材を輩出していきたい。

【星 八幡平市教育委員会教育長】

- ・ 各学校は魅力化に向けて努力しているが、地域や保護者に向けて取組状況を発信していかなければ、学校の良さを伝えることは難しい。
- ・ 平館高校は高校の魅力化を位置付けたコミュニティスクールの導入に取り組んでおり、地域や保護者と一緒に学校の在り方を考えていこうとしている。学校の魅力化を推進していく上で、地域と保護者が応援団として支えていくことが重要となってくる。

【県教委】

- ・ 小規模校の教育活動は、地域の皆様の御協力と豊富な資源に支えられながら行われているところであり、各自治体において持続的な社会の創造が可能となるよう、県教育委員会として学校とともに取り組んで参りたい。

【吉澤 葛巻町商工会会長】

- ・ 高校の魅力化促進事業については素晴らしい取組であると思う。葛巻町は山村留学に取り組むことで県内外の生徒を受け入れており、このことを地域住民は喜んでいるところである。
- ・ 町内の中学生と高校生は良好な関係を構築しながら生活しており、このような生活環境にあることが地域の素晴らしさであると感じている。
- ・ 葛巻町では、特に国公立大学への合格や、医師を志す生徒の育成に力を入れており、町内で学ぶ生徒の学力向上を目標に掲げ、公営塾等により意欲のある生徒を育成している。

【県教委】

- ・ 後期計画案における基本的な考え方及び具体的な取組について、会議構成員の皆様から高い評価をいただき感謝申し上げます。
- ・ ICT環境の整備については、全国的にも推進していく方向性は定まっている。本県においては学びの改革プロジェクトにより推進しているところであるが、ICTは遠隔授業の手法のみではなく、教員がより良い授業をしていくためのツールでもあると捉えており、小規模校の学びの質の向上に資するものと考えている。
- ・ 今後については、ハード面のみではなくソフト面についての研究も必要であり、ICT環境の一層の充実に向けた新たな課題を解決していく必要がある。
- ・ 高校の魅力化促進事業については、各高校が市町村との連携を深めることで効果を高め、このことが地域の活性化にも繋がるものと考えている。
- ・ これまで会議構成員の皆様からいただいた御意見等を踏まえ、今年度内を目途に、後期計画を策定して参りたい。
- ・ 今後とも、本県教育の振興のために一層の御理解、御協力を賜るようお願い申し上げます。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第4回)【盛岡ブロック①】
出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	八幡平市	田村正彦	八幡平市長	
2		遠藤収一	八幡平市商工会 事務局長	
3		小澤和弘	新岩手農業協同組合 常務理事	
4		畠山耕	八幡平市立西根第一中学校PTA 会長	
5		星俊也	八幡平市教育委員会 教育長	
6	雫石町	猿子恵久	雫石町長	
7		岩崎憲悦	雫石商工会 事務局長	代理
8		作山雅宏	雫石町教育委員会 教育長	
9	岩手町	佐々木光司	岩手町 町長	
10		福土好子	岩手町農業委員会	
11		岩崎裕樹	岩手町PTA連合会 副会長 (岩手町立沼宮内中学校PTA会長)	
12		佐藤卓	岩手町教育委員会 教育長	
13	葛巻町	鈴木重男	葛巻町 町長	
14		吉澤信光	葛巻町商工会 会長	
15		志田一将	葛巻町立葛巻中学校PTA 代表	
16		高畑嗣人	葛巻町教育委員会 教育長	
17	地区中学校長代表	角掛忠浩	岩手地区校長会 副会長 (滝沢市立滝沢中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
18	県議会議員	軽石義則	岩手県議会議員	
19		千葉伝	岩手県議会議員	
20		斉藤信	岩手県議会議員	
21		小西和子	岩手県議会議員	
22		上原康樹	岩手県議会議員	
23	県立高等学校	千葉雅彦	沼宮内高等学校長	
24		木村基	葛巻高等学校長	
25		谷藤節雄	平舘高等学校長	
26		小原由紀	雫石高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
27	県教育委員会 事務局等	久保智克	盛岡教育事務所長	
28		梅津久仁宏	教育次長	
29		木村克則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
30		中川覚敬	学校教育課総括課長	
31		須川和紀	学校教育課首席指導主事兼高校教育課長	
32		森田竜平	学校調整課高校改革課長	
33		谷地信治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
34		市丸成彦	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
35		小野寺一浩	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
36		女鹿光介	学校調整課高校改革担当主査	